

南三陸町 第2期データヘルス計画 中間評価シート







1 はじめに

背景・目的	<p>「日本再興戦略」(平成25年6月14日閣議決定)において「全ての健康保険組合に対しレセプト等のデータ分析、それに基づく加入者の健康保持増進のための事業計画として「データヘルス計画」の作成・公表、事業実施、評価等の取組を求めるとともに、市区町村国保が同様の取組を行うことを推進する。」としている。また「日本再興戦略2016」(平成28年6月2日閣議決定)においては「データヘルス計画を通じた企業や保険者等による健康・予防に向けた取組を強化する。」としている。</p> <p>目的:健康・医療情報を活用し健康状態や健康課題を客観的な指標を用いて示し、分析結果を踏まえ直ちに取組むべき健康課題、中長期的に取り組むべき健康課題を明確にし目標値の設定を含めた事業内容の企画を行い、事業実施に当たっては費用対効果を考慮する、レセプトを活用し生活習慣の改善により予防効果が大きく期待できる者を明確にし優先順位をつけて事業を行うことができる。</p>
期間	平成30年年度～令和5年度
対象者	国保被保険者

2 第2期データヘルス計画の概要

健康課題	<p>特定健康診査受診率及び特定保健指導実施率:疾病大分類や疾病中分類において生活習慣病患者が多数存在し医療費も多額である。</p> <p>健診異常値放置者・生活習慣病治療中断者:健診異常値放置者・生活習慣病治療中断者が存在する。</p> <p>糖尿病性腎症:人工透析者のうちⅡ型糖尿病起因の患者が72.7%である。</p> <p>ジェネリック医薬品の普及率:国が定める目標(80%以上)と比較して低い。(H28年4月～H29年3月診療分の医薬品普及率金額ベース44%、数量ベース72.4%である。</p>								
目標 (アウトカム)	<p>個別保健事業の目標</p> <p>特定健康診査受診勧奨事業:特定健康診査受診率前年度比1%上昇 特定健康診査受診率46%</p> <p>特定保健指導事業:指導対象者の実施率前年度比1%上昇 指導対象者の実施率10%</p> <p>健診異常値放置者受診勧奨事業:対象者の医療機関受診率50% 健診異常値放置者20%減少</p> <p>生活習慣病予防啓発事業:参加者の満足度(満点)80% メタボリックシンドローム該当者・予備群割合減少率(対H29)6% 対象者の医療機関受診率50% 通知後受診者の医療機関受診継続率50%</p> <p>糖尿病性腎症重症化予防事業:指導完了者の生活習慣改善率50% 指導完了者の検査改善率50% 新規人工透析患者割合0%</p> <p>ジェネリック医薬品差額通知事業:通知対象者のジェネリック医薬品普及率(数量ベース)30%上昇 ジェネリック医薬品普及率(数量ベース)80%</p>								
データヘルス計画に記載している 個別保健事業名	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 25%;">特定健康診査受診勧奨事業</td> <td style="width: 25%;">特定保健指導事業</td> <td style="width: 25%;">健診異常値放置者受診勧奨事業</td> <td style="width: 25%;">生活習慣病予防啓発事業</td> </tr> <tr> <td>糖尿病性腎症重症化予防事業</td> <td>ジェネック卵薬品差額通知事業</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	特定健康診査受診勧奨事業	特定保健指導事業	健診異常値放置者受診勧奨事業	生活習慣病予防啓発事業	糖尿病性腎症重症化予防事業	ジェネック卵薬品差額通知事業		
特定健康診査受診勧奨事業	特定保健指導事業	健診異常値放置者受診勧奨事業	生活習慣病予防啓発事業						
糖尿病性腎症重症化予防事業	ジェネック卵薬品差額通知事業								

【実際の個別保健事業】

	目標 (アウトカム)	事業概要	第1期	平成30年度	平成31年度	令和2年度	
特定健康診査受診勧奨事業	受診率前年度比1% 上昇 特定健康診査受診 率46%	特定健康診査受診対象者に健診 の受診を促す	開始				
特定保健指導事業	指導対象者の実施率 前年度比1%上昇 指導対象者の実施率 10%	特定健康診査の結果から対象者を 特定し生活習慣や検査値が改善さ れるように専門職による支援を行う	開始				
健診異常値放置者受診勧 奨事業	対象者の医療機関受 診率50% 健診異常値放置者 20%減少	特定健康診査の受診後結果に異 常値があるにも関わらず医療機関 受診が確認できない対象者を特 定し受診勧奨通知を送付する。	開始				
生活習慣病予防啓発事業	参加者の満足度(満点) 80% メタボリックシンドローム 該当者・予備群割合減 少率(対H29)6% 対象者の医療機関受診 率50% 通知後受診者の医療機 関受診継続率50%	生活習慣病を予防するための健康 教室、健康相談、栄養教室を実施 するほか、生活習慣病治療中断者 に対し医療機関への受診勧奨を 行う	開始				
糖尿病性腎症重症化予防 事業	指導完了者の生活習 慣改善率50% 指導完了者の検査改 善率50% 新規人工透析患者割 合0%	特定健康診査の検査値とレセプ トデータから対象者を特定し、 正しい生活習慣を身につけるこ とができるよう専門職より対象者 に6か月間の面談指導と電話指 導を行う			開始		
ジェネリック医薬品差額 通知事業	通知対象者のジェネ リック医薬品普及率 (数量ベース)30% 上昇 ジェネリック医薬品普 及率(数量ベース) 80%	レセプトデータからジェネリック医 薬品の使用率が低くジェネリック 医薬品への切り替えによる薬剤 軽減額が一定以上の対象者を 特定する。通知書を対象者に 送付することでジェネリック医薬 品への切り替えを促す	開始				

3 個別保健事業評価

(1) 特定健康診査受診勧奨

(a) 事業内容(現状)

背景	第3期特定健康診査等実施計画における国の市町村国保の目標は60%以上であり、町第3期特定健康診査等実施計画(H30年3月策定)でもH35年度目標は60%である。40歳以上の被保険者で健診未受診者は63.4%であり、そのうち生活習慣病状況不明者は27.4%である。H29年度の受診率は42.2%であった。特定健康診査結果で要指導、要医療判定は95%である。
目的	特定健康診査の受診率向上
具体的内容	集団健診(7月～8月・10月)及び個別健診(~12月)を実施する。 ①40歳から74歳の対象者に受診券(受診票)を郵送する。受診勧奨の啓発媒体を同封する。②特定健康診査の実施 ③第1次集団健診終了後に未受診者を特定する ④第2次集団健診または個別健診への受診勧奨を郵送にて実施する。
評価指標 目標値 (アウトカム・アウトプット)	アウトカム: 短期目標値 特定健康診査受診率前年度比1%上昇。 中長期目標値 特定健康診査受診率46% アウトプット: 対象者への通知率100% 評価方法: 特定健康診査受診率を確認する。

(b) 評価と見直し・改善案

事業名 : 特定健康診査受診勧奨事業	評価指標 (アウトカム・アウトプット)	目標値	ベースライン	経年変化	指標判定	事業判定	要因 (うまくいった・ いかなかった要因)	見直しと改善の案
	アウトカム ・健診受診数(者)の変化	46%	H28:39.2%	H29: 1,235人 42.2%	H30: 1,132人 40.5%	C ⑤	C	<ul style="list-style-type: none"> ・特定健康診査受診アップキャンペーンを町内の商業施設内にて保健福祉推進員、食生活改善推進員、健康づくり隊と共に実施し周知を図った。 ・対象者には申込みをとらずに受診票(受診券)を郵送している。未受診者健診も実施し受診勧奨通知を郵送している。 ・町内の特定健康診査実施医療機関へ保健部門とともに訪問し、個別健診協力依頼を行っているが、個別健診の受診件数は20件くらいと伸びていない。また、町民のロコミ力を期待して地区での健康教室や町広報誌にて受診勧奨をしているが、あまり効果が見えない。対象者への周知が不足しているか。 ・連続した未受診者の把握ができていない。
アウトプット ・未受診者への受診勧奨数(率)	100%	H29:100% 1692件	H30: 100% 1,661件	R1: 100% 1,619件	A ⑥			

※ 事業全体の評価

(1) 目標値との比較	(2) ベースラインとの比較	(3) 総合判定
A:すでに目標を達成 B:目標は達成できていないが、達成の可能性が高い C:目標の達成は難しいが、ある程度の効果はある D:目標の達成は困難で、効果があるとは言えない E:評価困難	㊶改善している ㊷変わらない ㊸悪化している ㊹評価困難	A:うまくいっている B:まあ、うまくいっている C:あまりうまくいっていない D:まったくうまくいっていない E:わからない
指標ごとの評価が基本。目標値がない場合は困難	指標ごとの評価	事業全体を評価

(c) 今後の事業計画

背景	特定健康診査の受診率は40%と目標46%には届いていない状況である。 医療機関受療者の健診受診についての理解不足がある。 連続した未受診者の把握ができていない。 健診結果で要指導、要医療判定者がほとんどである。
目的	特定健康診査の受診率向上
具体的内容	対象者(40の継続した受診の勧奨と連続した未受診者を把握し受診勧奨を行う。 集団健診(7月～8月・10月)及び個別健診(～12月)を実施する。健診受診の啓発を図る。 ①40歳から74歳の対象者に受診券(受診票)を郵送する。受診勧奨の啓発媒体を同封する。②3年連続した未受診者に電話等で受診を勧奨する。 ③特定健康診査の実施。健診会場での健康相談会にて継続受診勧奨を行う。④第1次集団健診終了後に未受診者を特定する ⑤第2次集団健診または個別健診への受診勧奨を郵送にて実施する。
評価指標	アウトカム:特定健康診査受診率 アウトプット:受診勧奨率 受診勧奨通知数
目標値	アウトカム:特定健康診査受診率46% アウトプット:対象者への通知率100% 受診勧奨率50%
年度計画	R3:未受診者への受診勧奨を継続する(連続未受診者へ受診勧奨を行う) R4:未受診者への受診勧奨を継続する(R3を評価し強化ポイントを決定する) R5:平成28年度からの経年変化を踏まえて評価し次年度からの計画を立案する。

3 個別保健事業評価

(1) 特定保健指導事業

(a) 事業内容(現状)

背景	特定保健指導対象者は、H28年度289人受診者の23.9%(積極的支援123人43%、動機付け支援166人57%)である。特定健康診査の間診票によると生活習慣の改善意思なしは45.4%であった。特定保健指導利用状況は1.4%であり、低い状況である。
目的	生活習慣病該当者及び予備群の減少 対象者自身が自分の健康に関するセルフケア(自己管理)ができるようになる。生活習慣病の重症化予防のための保健指導を行う。
具体的内容	特定健康診査結果に基づき階層化の基準を満たした積極的支援、動機付け支援の者。 特定健康診査の結果から特定保健指導対象者を特定し、生活習慣や検査値が改善されるように専門職による支援を面接や電話等で行う。 H30年度より特定健診会場にて、初回面談を実施。また、別日程での初回面談の実施。期間は3か月での評価とし、積極的支援、動機付け支援とも委託している。
評価指標 目標値 (アウトカム・アウトプット)	アウトカム: 指導実施率前年度比1%上昇 対象者への指導実施率10% アウトプット: 対象者への通知率100% 新規対象者への利用勧奨率80% 評価方法: 特定保健指導実施率を確認する

(b) 評価と見直し・改善案

	評価指標 (アウトカム・アウトプット)	目標値	ベースライン	経年変化	指標 判定	事業 判定	要因 (うまくいった・ いかなかった要因)	見直しと改善の案
事業名: 特定保健指導事業	アウトカム ・指導実施率の 変化	10%	H28:1.4%	H29: 対象者291人 利用者 9人 3.1% H30: 対象者275人 利用者 19人 6.9% R1: 対象者261人 利用者 17人 6.5%	C Ⓐ	c	・H30年度より特定健康診査時に初回面談を実施した。 ・委託機関や保健部門内での打ち合わせや振り返り会議を実施し、共有を図った。	・新規対象者の把握をし利用勧奨を特定健康診査実施時や郵送での案内通知時の周知を検討し実施する。
	アウトプット ・対象者への通知率 ・新規対象者の利用 勧奨率	100% 80%	H28:100%	H29~R1 通知率100%	A Ⓑ E			

※ 事業全体の評価

(1) 目標値との比較	(2) ベースラインとの比較	(3) 総合判定
A:すでに目標を達成 B:目標は達成できていないが、達成の可能性が高い C:目標の達成は難しいが、ある程度の効果はある D:目標の達成は困難で、効果があるとは言えない E:評価困難	㊶改善している ㊷変わらない ㊸悪化している ㊹評価困難	A:うまくいっている B:まあ、うまくいっている C:あまりうまくいっていない D:まったくうまくいっていない E:わからない
指標ごとの評価が基本。目標値がない場合は困難	指標ごとの評価	事業全体を評価

(c) 今後の事業計画

背景	特定保健指導対象者は、特定健康診査受診者の25%弱である。 特定保健指導の実施率は低い。
目的	生活習慣病該当者及び予備群の減少 対象者自身が自分の健康に関するセルフケア(自己管理)ができるようになる。生活習慣病の重症化予防のための保健指導を行う。
具体的内容	特定健康診査結果に基づき階層化の基準を満たした積極的支援、動機付け支援の者。 特定健康診査の結果から特定保健指導対象者を特定し、生活習慣や検査値が改善されるように専門職による支援を面接や電話等で行う。 特定健診会場にて、初回面談を実施。また、別日程での初回面談の実施。期間は3か月での評価とし、積極的支援、動機付け支援とも委託している。 (新規対象者を把握し、利用勧奨を行う)
評価指標	アウトカム:指導実施率 アウトプット:対象者への通知率 新規対象者への利用勧奨率
目標値	アウトカム:指導実施率前年度比1%上昇 対象者への指導実施率10% アウトプット:対象者への通知率100% 新規対象者への利用勧奨率80%
年度計画	R3:対象者への利用勧奨を継続する(新規利用対象者を把握し、利用勧奨を行う) R4:対象者への利用勧奨を継続する(R3を評価し強化ポイントを決定する) R5:平成28年度からの経年変化を踏まえて評価し次年度からの計画を立案する。

(2) 健診異常値放置者受診勧奨事業

(a) 事業内容(現状)

背景	医療費をみると循環器、代謝疾患での医療費が高い。入院では、虚血性心疾患、外来では高血圧症・糖尿病での受療者が多い。虚血性心疾患のリスクの高い健診結果で要医療判定者が血圧2割脂質2割血糖1割である。
目的	健診異常値を放置している対象者の医療機関受診(未治療者を減らし、適切な医療につなげる)
具体的内容	特定健康診査結果、要医療判定者で、血圧・脂質・血糖のうち2又は3因子の保有者(4か月以上医療機関へ受診していない者)を対象 ①受療勧奨事業:特定健康診査結果にて対象者を特定し、レセプトにて12月分まで確認し未受領者には「受療勧奨通知」を送付し、その後レセプトにて受療を確認する。未受療者には、次年度の特定健康診査等の会場での「個別健康相談」にて再度受療勧奨する。 ②受療勧奨のための個別相談事業:特定健康診査等会場にて健康相談会を行う。 ③啓発事業:健康教室や地区組織の研修会等で啓発を行う。
評価指標 目標値 (アウトカム・アウトプット)	アウトカム:対象者の医療機関受診率50% 健診異常値放置者20%減少 アウトプット:対象者の通知率100% 評価方法:(短期)通知後医療機関を受診したか確認する (中長期)健診異常値放置者数の推移により確認する

(b) 評価と見直し・改善案

	評価指標 (アウトカム・アウトプット)	目標値	ベースライン	経年変化	指標判定	事業判定	要因 (うまくいった・ いかなかった要因)	見直しと改善の案
事業名: 健診異常値放置者受診勧奨事業	アウトカム ・対象者の医療機関受診率の変化	50%	H28:23.1% 通知者207人 (要指導判定含む)	H29: 36.1% 対象者62人 H30: 49.4% 対象者82人 R1: 48.5% 対象者66人 通知者40人	B ①	B	<ul style="list-style-type: none"> 国保担当と保健担当と健診結果等の町の現状の共有ができた。役割分担をし、実施した。令和2年度からレセプト点検ポジションがなくなった。受療をレセプトで確認するには時間を要することとなった。 最終確認の場を次年度の特定健康診査等の会場で実施する健康相談会として、未受療者への受療勧奨が直接できた。 経年で事業対象になる確率が高い。受療後生活習慣の改善の指示の場合次年度対象になっても受療しないケースがある。 	・受療確認方法を検討する。
	・健診異常値放置者	20%減少	H29:62人		C ②			
	アウトプット ・対象者への通知率	100%	H28:100%	H29~R1 通知率100%	A ③			

※ 事業全体の評価

(1) 目標値との比較	(2) ベースラインとの比較	(3) 総合判定
A:すでに目標を達成 B:目標は達成できていないが、達成の可能性が高い C:目標の達成は難しいが、ある程度の効果はある D:目標の達成は困難で、効果があるとは言えない E:評価困難	㊶改善している ㊷変わらない ㊸悪化している ㊹評価困難	A:うまくいっている B:まあ、うまくいっている C:あまりうまくいっていない D:まったくうまくいっていない E:わからない
指標ごとの評価が基本。目標値がない場合は困難	指標ごとの評価	事業全体を評価

(c) 今後の事業計画

背景	医療費をみると循環器、代謝疾患での医療費が高い。入院では、虚血性心疾患、外来では高血圧症・糖尿病での受療者が多い。 虚血性心疾患のリスクの高い健診結果で要医療判定者が血圧2割脂質2割血糖1割である。 経年で事業対象となる割合が高い。(放置されたままや継続した受療がなされていない)
目的	健診異常値を放置している対象者の医療機関受診 (未治療者を減らし、適切な医療につなげる)
具体的内容	特定健康診査結果、要医療判定者で、血圧・脂質・血糖のうち2又は3因子の保有者(4か月以上医療機関へ受診していない者)を対象 ①受療勧奨事業:特定健康診査結果にて対象者を特定し、レセプトにて12月分まで確認し未受領者には「受療勧奨通知」を送付し、その後レセプトにて受療を確認する。未受療者には、次年度の特定健康診査等の会場での「個別健康相談」にて再度受療勧奨する。 ②受療勧奨のための個別相談事業:特定健康診査等会場にて健康相談会を行う。 ③啓発事業:健康教室や地区組織の研修会等で啓発を行う。
評価指標	アウトカム:対象者の医療機関受診率 健診異常値放置者の減少率 アウトプット:対象者の通知率
目標値	アウトカム:対象者の医療機関受診率50% 健診異常値放置者20%減少 アウトプット:対象者の通知率100%
年度計画	R3:対象者への受診勧奨事業を継続する R4:対象者への受診勧奨を継続する(R3を評価し強化ポイントを決定する) R5:平成28年度からの経年変化を踏まえて評価し次年度からの計画を立案する。

(3) 生活習慣病予防啓発事業

(a) 事業内容(現状)

背景	メタボ該当、メタボ予備軍が多い。 特定健康診査結果ヘモグロビンA1c検査の有所見者は7割(要指導判定6割、要医療判定は1割)である。 血圧、脂質、血糖の有所見者が多い。医療費をみると、生活習慣に起因する、循環器、内分泌系の医療費が高く、患者数も多い。 健康に関する関心が低い(?)
目的	生活習慣病に対する正しい知識の習得 健康づくりへの関心が高まる 生活習慣病治療中断者を適切な医療につなげる。
具体的内容	対象は町民 ①生活習慣病予防のための健康教室、健康相談、栄養教室の実施 ②みんなで健診に行こう作戦(大型スーパー敷地内や地区のイベント、福祉健康まつり等で健診の受診勧奨を行う) ③啓発普及活動「あなたの健康づくりを教えて」というテーマで町民へのインタビュー記事の掲載を行う。掲載記事には保健師、管理栄養士からのコメントをつける。 ④生活習慣病治療中断者に受診勧奨を行う。
評価指標 目標値 (アウトカム・アウトプット)	健康教室等実施 アウトカム:(短期)参加者の満足度(満点)70% メタボリックシンドローム該当者・予備群割合前年度比1%減 (中長期)参加者の満足度(満点)80% メタボリックシンドローム該当者・予備群割合減少率(対H29)6% アウトプット:健康教室等実施回数 60回 評価方法:事後アンケート調査で確認する。特定健康診査結果を確認する 生活習慣病治療中断者受診勧奨 アウトカム:(短期)対象者の医療機関受診率50% (中長期)通知後受診者の医療機関受診継続率50% アウトプット:対象者の通知率100% 評価方法:通知後医療機関を確認したか確認する

(b) 評価と見直し・改善案

事業名 : 生活習慣病 予防啓発事業	評価指標 (アウトカム・アウトプット)	目標値	ベースライン	経年変化	指標 判定	事業 判定	要因 (うまくいった・ いかなかった要因)	見直しと改善の案
	健康教室等実施 アウトカム ・参加者の満足度	満点80%	H29:62%	H30: 40.4%	H30:86回 R1:87回	C ⑥	C	・栄養教室において地区組織と協働で事業を実施した。 ・健康教室事後アンケートの質問内容を変更していた。 ・生活習慣病治療中断者受診勧奨事業は未実地である。
・メタボ該当予備群割合	対H29 6%	H29:39.9%	H30: 41.1%	D ③				
アウトプット ・健康教室等実施回数	60回	H29:55回			A ①			
生活習慣病治療中断者受診勧奨 アウトカム 通知後受診者の医療機関受診継続率	50%				C ⑥			
アウトプット 対象者の通知率	100%							

※ 事業全体の評価

(1) 目標値との比較	(2) ベースラインとの比較	(3) 総合判定
A:すでに目標を達成 B:目標は達成できていないが、達成の可能性が高い C:目標の達成は難しいが、ある程度の効果はある D:目標の達成は困難で、効果があるとは言えない E:評価困難	㊸改善している ㊹変わらない ㊺悪化している ㊻評価困難	A:うまくいっている B:まあ、うまくいっている C:あまりうまくいっていない D:まったくうまくいっていない E:わからない
指標ごとの評価が基本。目標値がない場合は困難	指標ごとの評価	事業全体を評価

(c) 今後の事業計画

背景	メタボ該当、メタボ予備軍が多く、前年度より増加している。特定健康診査結果ヘモグロビンA1c検査の有所見者は7割(要指導判定6割、要医療判定は1割)である。血圧、脂質、血糖の有所見者が多い。医療費をみると、生活習慣に起因する、循環器、内分泌系の医療費が高く、患者数も多い。健康に関する関心が低い(?) 生活習慣病治療中断者受診勧奨事業は未実施である。評価指標で評かできない事業がある。
目的	生活習慣病に対する正しい知識の習得 健康づくりへの関心が高まる 生活習慣病治療中断者を適切な医療につなげる。
具体的内容	対象は町民 ①生活習慣病予防のための健康教室、健康相談、栄養教室の実施 ②みんなで健診に行こう作戦(大型スーパー敷地内や地区のイベント、福祉健康まつり等で健診の受診勧奨を行う) ③啓発普及活動:「あなたの健康づくりを教えて」というテーマで町民へのインタビュー記事の掲載を行う。掲載記事には保健師、管理栄養士からのコメントをつける。 ④生活習慣病治療中断者に受診勧奨を行う。
評価指標	健康教室等実施 アウトカム:参加者の満足度 メタボリックシンドローム該当者・予備群割合 アウトプット:健康教室等実施回数 生活習慣病治療中断者受診勧奨 アウトカム:対象者の医療機関受診率 通知後受診者の医療機関受診継続率 アウトプット:対象者の通知率
目標値	健康教室等実施 アウトカム:参加者の満足度(満点)短期:70% 中長期:80% メタボリックシンドローム該当者・予備群割合(短期)前年度比1%減(中長期)6% アウトプット:健康教室等実施回数 60回 生活習慣病治療中断者受診勧奨 アウトカム:(短期)対象者の医療機関受診率50% (中長期)通知後受診者の医療機関受診継続率50% アウトプット:対象者の通知率100%
年度計画	R3:生活習慣病治療中断者受診勧奨事業を行う。生活習慣病予防のための事業を継続して行う。参加者満足度調査を見直し実施する。 R4:継続して実施する。(R3を評価し強化ポイントを決定する) R5:平成28年度からの経年変化を踏まえて評価し次年度からの計画を立案する。

(4) 糖尿病性腎症重症化予防事業

(a) 事業内容(現状)

背景	医療費をみると慢性腎不全(透析あり)は6.3%(R1)である。H28年度の透析患者数は22名でその72.7%が糖尿病を起因としている。特定健康診査結果ヘモグロビンA1c検査の有所見者は7割(要指導判定6割、要医療判定は1割)である。
目的	糖尿病性腎症患者の病気進行阻止 生活習慣病を起因とする新規の透析患者をださない
具体的内容	特定健康診査結果ヘモグロビンA1c6.5%以上eGFR30~59の該当者で気仙沼市医師会の医療機関通院者対象。 参加者の主治医と連携し健診データ、医療機関での検査値当を用い参加者自身の健康状態を正しく理解してもらい必要な生活改善につながる保健指導を行い検査値の推移等により成果を確認し状況について必要時主治医に報告する。(主治医からの情報提供書による指示あり)支援機関は概ね6か月間、個別面談、訪問等の対面指導。支援体制を確立するため終了後の状況を確認する(台帳作成)
評価指標 目標値 (アウトカム・アウトプット)	アウトカム:(短期)指導完了者の生活習慣改善率50% 指導完了者の検査値改善率50%(中長期)指導完了者の新規人工透析患者割合0% 評価方法:(短期)指導後の結果から生活習慣や検査値の改善状況を確認する アウトプット:対象者の指導実施率10%以上

(b) 評価と見直し・改善案

	評価指標 (アウトカム・アウトプット)	目標値	ベースライン	経年変化	指標判定	事業判定	要因 (うまくいった・ いかなかった要因)	見直しと改善の案
事業名: 糖尿病性腎症重症化予防事業	アウトカム(短期) ・指導完了者の生活習慣改善率	50%	R1:100% 実施者2名	R1から 事業開始	C ⑥	B	・町内の医療機関に事業実施に向けた説明を行い理解を得られた。 ・対象者から主治医に事業実施案内が4名しかつながらなかった。	・職員研修を行い、スキルアップと職員間の共有を図る。 腎症重症化予防事業を開始したところであり、今後の推移を見ながら評価する
	・指導完了者の検査値改善率	50%	R1:50% 実施者2名のうち 1名改善		C ④			
	アウトカム(中長期) ・指導完了者の新規人工透析患者割合	0%			E ④			
	アウトプット ・対象者の指導実施率	10%以上	R1:22% 対象者9名 実施者2名 医師会からの 情報提供書4件	R1から 事業開始	C ⑥			

※ 事業全体の評価

(1) 目標値との比較	(2) ベースラインとの比較	(3) 総合判定
A:すでに目標を達成 B:目標は達成できていないが、達成の可能性が高い C:目標の達成は難しいが、ある程度の効果はある D:目標の達成は困難で、効果があるとは言えない E:評価困難	㊶改善している ㊷変わらない ㊸悪化している ㊹評価困難	A:うまくいっている B:まあ、うまくいっている C:あまりうまくいっていない D:まったくうまくいっていない E:わからない
指標ごとの評価が基本。目標値がない場合は困難	指標ごとの評価	事業全体を評価

(c) 今後の事業計画

背景	医療費をみると慢性腎不全(透析あり)は6.3%(R1)である。H28年度の透析患者数は22名でその72.7%が糖尿病を起因としている。特定健康診査結果ヘモグロビンA1c検査の有所見者は7割(要指導判定6割、要医療判定は1割)である。
目的	糖尿病性腎症患者の病気進行阻止 生活習慣病を起因とする新規の透析患者をださない
具体的内容	特定健康診査結果ヘモグロビンA1c6.5%以上eGFR30~59の該当者で気仙沼市医師会の医療機関通院者対象。 参加者の主治医と連携し健診データ、医療機関での検査値当を用い参加者自身の健康状態を正しく理解してもらい必要な生活改善につながる保健指導を行い検査値の推移等により成果を確認し状況について必要時主治医に報告する。(主治医からの情報提供書による指示あり)支援機関は概ね6か月間、個別面談、訪問等の対面指導。支援体制を確立するため終了後の状況を確認する(台帳作成)
評価指標	アウトカム:(短期)指導完了者の生活習慣改善率 指導完了者の検査値改善率(中長期)指導完了者の新規人工透析患者割合 アウトプット:対象者の指導実施率10%以上
目標値	アウトカム:(短期)指導完了者の生活習慣改善率50% 指導完了者の検査値改善率50%(中長期)指導完了者の新規人工透析患者割合0% アウトプット:対象者の指導実施率10%以上
年度計画	R3:継続して実施する R4:継続して実施する(R3を評価し強化ポイントを決定する) R5:令和1年度からの経年変化を踏まえて評価し次年度からの計画を立案する。

(5) ジェネリック医薬品差額通知事業

(a) 事業内容(現状)

背景	国保の加入者が平成28年度の4,881人から平成31年度4,141人と減少傾向にあるのに対して、一人当たりの外来医療費は平成28年度14,149円から平成31年度では15,699円と増加傾向にあり、医療費の適正化のためには外来医療費に占める医薬品費を抑制する必要がある。
目的	ジェネリック医薬品の使用率を上げる。
具体的内容	ジェネリック医薬品周知と切り替えを促す通知を年2回送付している。 保険者証のケースに「ジェネリック医薬品の利用促進」PR文の印刷をして、交付している
評価指標 目標値 (アウトカム・アウトプット)	アウトカム :ジェネリック医薬品の使用率向上 アウトプット:差額通知の発送

(b) 評価と見直し・改善案

事業名 ： ジェネリック 医薬品 差額 通知 事業	評価指標 (アウトカム・アウトプット)	目標値	ベースライン	経年変化	指標 判定	事業 判定	要因 (うまくいった・ いかなかった要因)	見直しと改善の案
		アウトカム ク医薬品の使用率向	80%	50%	80%	A Ⓐ	A	確実に使用率は向上しており、国の目標をクリアーしている。
	アウトプット 差額通知の減少	-	100	40	A Ⓐ	年々差額通知書の発送数は減少している		

※ 事業全体の評価

(1) 目標値との比較	(2) ベースラインとの比較	(3) 総合判定
A:すでに目標を達成 B:目標は達成できていないが、達成の可能性が高い C:目標の達成は難しいが、ある程度の効果はある D:目標の達成は困難で、効果があるとは言えない E:評価困難	㊶改善している ㊷変わらない ㊸悪化している ㊹評価困難	A:うまくいっている B:まあ、うまくいっている C:あまりうまくいっていない D:まったくうまくいっていない E:わからない
指標ごとの評価が基本。目標値がない場合は困難	指標ごとの評価	事業全体を評価

(c) 今後の事業計画

背景	ジェネリック医薬品の普及には、医師会や薬剤師会の理解と協力が必要である。 使用分析ができていない。
目的	ジェネリック医薬品の使用率を上げる。
具体的内容	医師会、薬剤師会を含む会議でジェネリック医薬品の普及について協力依頼 被保険者がジェネリック医薬品を希望する旨を、医療機関に伝え易い方策を検討 国保連合会に使用状況等の分析を依頼
評価指標	連携会議の開催状況 分析データ実施の有無 普及啓発事業の検討の有無
目標値	アウトカム :ジェネリック医薬品の使用率80%(国の目標値)に近づける。 アウトプット:差額通知の発送数の減少
年度計画	R3:継続して実施する R4:継続して実施する R5:令和1年度からの経年変化を踏まえて評価し次年度からの計画を立案する。

4 各個別保健事業の見直し等まとめ

個別保健事業名	評価結果・課題	見直し内容	今後の計画
特定健康診査受診 勧奨事業	目標値に達していないが、できていない連続した未受診者の把握をし未受診の理由がわかる取り組みをして受診率を向上させていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の健康への関心や健診の必要性と特定健康診査のしくみについて啓発する機会を増やす。 ・目的等職員間でも共有する。 ・連続した未受診者を把握し受診勧奨を電話等で行う。 	継続 毎年度評価と見直しを行う
特定保健指導事業	目標に達していないが、受診率は徐々にではあるが上昇している、	<ul style="list-style-type: none"> ・新規対象者の把握をし利用勧奨を行う。 ・訴求力の高い案内通知を検討する。 	継続 毎年度評価と見直しを行う 新規利用対象者を把握して利用勧奨を行う。
健診異常値放置者 受診勧奨事業	ほぼ目標は達成している。 国保担当系の体制が変わり、受療の確認をとるのに時間を要するので、受療確認方法を検討する	<ul style="list-style-type: none"> ・受療確認方法を検討する 	受療確認方法を検討し、対象者の受療確認を継続する。 毎年度評価と見直しを行う
生活習慣病予防啓 発事業	評価ができかねた。 生活習慣病治療中断者受診勧奨事業が未実施なので実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・評価ができるような満足度調査にする。 ・医療費等から地域の課題を抽出し課題解決のための教室を開催する。 ・生活習慣病治療中断者受診勧奨事業に取り組む 	継続 毎年度評価と見直しを行う生活習慣病治療中断者受診勧奨事業を行う。
糖尿病性腎症重 症化予防事業	今後経年変化をみて評価する。		継続 毎年度評価と見直しを行う
ジェネリック医薬 品差額通知事業			

5 中間評価方法

方法	データヘルス計画の位置づけの確認や成果が見える指標かどうかの確認を行うために関係者間で協議を行う。 R3年度、国保部門と保健部門と協働して、KDBデータを活用し医療費分析を行い、課題や今後の方向性について共有したい。
組織	・保険者努力支援制度

6 全体評価

(a) 現状

計画策定時の計画の方向性・目的など	データヘルス計画では、短期的に取り組むべき対策と中長期的に取り組むべき対策について、それぞれの段階にあった事業を行う						
指標	(アウトカム)			判断等	指標判定	指標評価のまとめ	総合判定
	目標値	ベースライン	経年変化				
特定健診の受診率の向上	46%	40%	40%	年度ごとに多少の変化はあるものの、結果的に受診率の向上にはなっていない	b	町の目標はほぼ達成しているものの、県の目標にはほど遠い数値になっており、町民の健康意識の低さと健康に関する無関心が見られる。 特定健診の未受診者に対するアプローチを検討することが必要である。	B
特定保健指導の対象者の実施率の向上	10%	1.4%	6.5%	実施率は向上しているが、人数的に20人以下で推移している。	a		
健診異常値放置者の医療機関受診率の向上	50%	23.1%	48.5%	確実に受診率は向上している	a		
計画全体でうまくできている点	・特定保健指導の実施方法を変えたことにより1桁レベルであるが、実施率の伸びが見られた年もあった。また、医師会などとの連携により糖尿病性腎症重症化予防などの保健事業が実施できた。						
計画全体としてうまくいっていない点	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な取り組みは行っているが、特定健診の受診率の伸びていない。 ・アウトカムの評価が十分にできていない事業がある。 ・医療費からの分析ができていないので、医療費分析の共有もできていない ・全体の目標や目標値が明確でない 						

(b) 今後の方向性

主な見直しと今後の方向性	医療費の適正を目的としたデータヘルス計画をどう位置づけていくか関係者間での協議が必要と思う。(人事異動で担当が変わることもあるが認識の継続は必要) 医療費分析が行われていないので、定期的に医療費分析を行い、現状や課題をとらえ、成果の見える事業へつなげていく。 国保担当課と保健担当課とで計画の評価を連携して行い共有を図っていく。
--------------	--

7 新規個別保健事業

1 事業名： 新規事業は、令和5年度策定の第3期データヘルス計画時に検討する。

2 事業内容(現状)

背景	
目的	
具体的内容	
評価指標 目標値 (アウトカム・アウト プット)	

※ 新規事業全体のまとめ

事業名	評価結果・課題	見直し内容	今後の計画

8 今後の予定と最終評価について

後半のスケジュール	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
	中間評価	実績を踏まえた個別事業評価	実績を踏まえた個別事業評価	実績を踏まえた個別事業評価 全体評価・計画策定	第3期計画
実施体制	国保担当課と保健担当課が、協議し、課題等を共有し連携した体制をつくる。 職員の医療費分析等のスキルアップを図る				
見直しの方法	健診結果の分析だけではなく、医療費分析も行い、計画を評価する。				

※ 全個別事業の見直し等まとめ

既存/新規	事業名	評価結果・課題	見直し内容	今後の計画
既存	特定健康診査 受診勧奨事業	目標値に達していないが、毎年度新たな試みを行い、 受診率を向上させていく。	引き続き受診率を向上させる取り組みを毎年度実施する	継続(毎年度評価 と見直し)
既存	特定保健指導 事業	目標に達していないが、受診率は徐々にではあるが上昇 している	引き続き受診率を向上させる取り組みを毎年度実施する	継続(毎年度評価 と見直し)
既存	健診異常値放置者 受診勧奨事業	ほぼ目標は達成している	受療確認方法を検討し、目標を達成していく	継続(毎年度評 価と見直し)
既存	生活習慣病予防 啓発事業	評価ができなかった。 評価指標を再検討し、目標値達成を目指す	評価指標を再検討し、目標値達成にむけた取り組みを毎年度 実施する	継続(毎年度評価 と見直し)
既存	糖尿病腎症 重症化予防	今後経年変化をみて評価する。	取り組みを毎年度実施する	継続(毎年度評価 と見直し)
既存	ジェネリック医薬品 差額通知事業	ほぼ目標は達成している□	取り組みを毎年度実施する	継続(毎年度評価